

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	101	科 目 名	人間の尊厳と倫理			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	人 間 の 尊 厳 と 自 立	担当講師	佐々木 炎			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」(中央法規出版)			参考書	・「人は“命”だけでは生きられない」 ～介護現場で魂に寄り添う牧師の奮闘記～		
成績評価	期末試験 100%で評価する。						

1. 授業概要

・「人間」の多面的理解（自己理解・他者理解）について学ぶ ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する ・身体的・精神的・社会的な自立支援とワーカー、クライアント関係について学ぶ ・介護福祉専門職として職業倫理観を養う。 ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
--

2. 到達目標

・人間の尊厳と自立の意味を理解する ・利用者の権利擁護の視点を身につける ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う

3. 授業計画

前期	
1	本科目のねらいと概要
2	人間の尊厳と自立—人間理解と尊厳
3	人間の尊厳と自立—「人間」の多面的理解（自己理解・他者理解） 1
4	人間の尊厳と自立—「人間」の多面的理解（自己理解・他者理解） 2
5	人間の尊厳と自立—人間の尊厳の理解①
6	人間の尊厳と自立—自立・自律
7	介護における尊厳の保持—人権と尊厳
8	介護における尊厳の保持—ノーマライゼーションと人権尊重
9	介護における尊厳の保持—権利擁護（アドボカシー） 1
10	介護における尊厳の保持—権利擁護（アドボカシー） 2
11	介護における尊厳の保持—福祉援助職の倫理①
12	介護における尊厳の保持—福祉援助職の倫理②
13	身体的・精神的・社会的自立支援
14	介護における自立支援とは
15	まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	201	科 目 名	対人援助技術			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	人 間 関 係 と コ ミュニ ケーシ ョン	担当講師	砂田 淳一郎			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態.	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」(中央法規出版)			参考書			
成績評価	授業貢献度 (20%)、課題レポート (30%)、筆記試験 (50%) で総合評価する。						

1. 授業概要

1. 人間関係の形成に必要な「自己覚知」と「他者理解」について、その意義と方法を学ぶ。
2. 社会福祉援助技術を総合的に活用するために、その意義と方法について学ぶ。
3. 介護福祉士の国家試験対策についても触れる。
4. 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

1. 介護実践における人間関係の構築とコミュニケーションの意義・技法について理解する。
2. 福祉専門職としての職業倫理を理解し、しっかりと身に付ける。
3. 介護福祉士の倫理綱領に基づき行動できる能力を習得する。
4. 自己覚知と他者理解について理解する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	福祉専門職の職業倫理① (介護福祉士とは何か)
3	福祉専門職の職業倫理② (介護福祉士の倫理綱領とは何か)
4	人間関係の形成① (対人援助とコミュニケーションの意義①)
5	人間関係の形成② (対人援助とコミュニケーションの意義②)
6	人間関係の形成③ (自己覚知と他者理解①)
7	人間関係の形成④ (自己覚知と他者理解②)
8	コミュニケーションの基礎① (社会福祉援助技術とは何か)
9	コミュニケーションの基礎② (バイスティックの7原則とは何か)
10	コミュニケーションの技法① (受容・共感・傾聴とは何か①)
11	コミュニケーションの技法② (受容・共感・傾聴とは何か②)
12	コミュニケーションの技法③ (言語的・非言語的コミュニケーションとは何か①)
13	コミュニケーションの技法④ (言語的・非言語的コミュニケーションとは何か②)
14	対人援助実践と事例検討
15	まとめ (筆記試験)

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	301	科 目 名	福祉と社会保障			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	社会の理解	担当講師	砂田 淳一郎			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	通期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」(中央法規出版)			参考書			
成績評価	授業貢献度 (20%)、課題レポート (30%)、筆記試験 (50%) で総合評価する。						

1. 授業概要

1. 様々な視点から社会構造を理解するとともに、現代社会が抱える問題点について理解する。
2. 日本の社会保障制度の基本的な考え方・歴史的変遷・仕組みについて理解を進める。
3. 介護福祉士の国家試験対策についても触れる。
4. 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

1. 介護職として、さらに労働者として広い視点で「社会福祉」を捉えることが出来るようにする。
2. すべての人間が人間として生きることを保障されているということについて理解する。
3. 社会保障制度の概要を理解し、介護実践の現場で必要とされる制度の基本的知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	生活と福祉について①(日本の社会保障制度と福祉制度①)
3	生活と福祉について②(日本の社会保障制度と福祉制度②)
4	日本の動向について①(日本の現状と課題①)
5	日本の動向について②(日本の現状と課題②)
6	日本の動向について③(日本の現状と課題③)
7	福祉分野の実践的視点について①(福祉分野の横断的学習①)
8	福祉分野の実践的視点について②(福祉分野の横断的学習②)
9	地域包括ケアシステムについて①(今後の福祉の方向性①)
10	地域包括ケアシステムについて②(今後の福祉の方向性②)
11	地域包括ケアシステムについて③(今後の福祉の方向性③)
12	介護の歴史について①(介護保険制度の創設過程と課題①)
13	介護の歴史について②(介護保険制度の創設過程と課題②)
14	介護の歴史について③(介護保険制度の創設過程と課題③)
15	前期のまとめ(筆記試験)
後期	
1	社会保障制度の概要について(社会保障制度の体系図)
2	社会保険関係について①(介護保険制度①)
3	社会保険関係について②(介護保険制度②)
4	社会保険関係について③(介護保険制度③)
5	社会保険関係について④(労働保険制度①)
6	社会保険関係について⑥(労働保険制度②)
7	社会保険関係について⑦(医療保険制度①)

8	社会保険関係について⑧（医療保険制度②）
9	社会保険関係について⑨（年金保険制度①）
10	社会保険関係について⑩（年金保険制度②）
11	公的扶助関係について（生活保護制度）
12	社会福祉関係について①（障害者制度・障害者総合支援法）
13	社会福祉関係について②（児童・家庭福祉制度）
14	介護実践に関する諸制度関係について
15	全体のまとめ（筆記試験）

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	302	科 目 名	地域ケアネットワーク			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	社会の理解	担当講師				履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 90%、平常点や授業への貢献度 10%で評価する。						

1. 授業概要

- ・地域における生活と福祉のあり方を考える。
- ・住み慣れた地域の中で、その人らしく生活するために必要な社会資源を考える。
- ・住民参加型の組織の役割を考える。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・地域福祉の考え方や枠組みが理解できる（地域福祉とはどのようなものか）
- ・地域福祉に関連する各種制度や援助方法が理解できる（地域福祉の基盤についての理解）
- ・地域福祉の援助が現在、どのように展開されているのか、その方法について理解できる
- ・現在何が問題とされており、それについてどのような取り組み方法が展開されているのか）
- ・これからの社会福祉と地域福祉の関係について、考察する

3. 授業計画

前期	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
後期	
1	地域福祉の学習に際し／授業の進め方 あなたの街の地域福祉
2	地域福祉援助についての理解
3	地域福祉の基盤作り(1) 地域福祉の基盤作りの視点とその発展
4	地域福祉の基盤作り(2) 地域福祉の考え方とその理論
5	地域福祉の主体性と福祉教育について

6	地域福祉を担う団体組織と人材
7	ボランティアと非営利組織（NPO）
8	住民参加と地域福祉計画
9	地域福祉援助のプログラム
10	地域福祉援助のネットワークについて
11	地域で展開する個と地域の一体的支援
12	地域における家族支援の必要性
13	ネットワークの活用と連携・協働による支援
14	地域を基盤とした権利擁護の視点
15	まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	401	科 目 名	アクティビティ			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	介 護 教 養科目	担当講師	上野 幸			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	・「認知症の人のレクリエーション」余暇問題研究所編著 (中央法規出版)			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末筆記試験 60%、レポート試験 20%、平常時の実技演習や授業への貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・レクリエーションアクティビティの考え方や意義を理解する。
- ・レクリエーションアクティビティと援助者の役割について理解する。
- ・レクリエーションアクティビティの個別計画作成能力および実践能力を習得する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・レクリエーションアクティビティの意義や目的を理解する。
- ・レクリエーションアクティビティの支援方法、特に個を重視して行うことを理解する。
- ・レクリエーションアクティビティ計画の基本を習得し演習を通じて実践できるようにする。

3. 授業計画

後期	
1	生活時間の構造とレクリエーション
2	レクリエーションアクティビティの意義と目的
3	高齢者・障害者にとってのアクティビティの意義
4	集団でのレクリエーションアクティビティの必要性
5	レクリエーションアクティビティ指導法
6	レクリエーションアクティビティの企画方法・計画及び作成①
7	レクリエーションアクティビティの企画方法・計画及び作成②
8	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティの実際①
9	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティの実際②
10	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習①
11	確認テスト・高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習②
12	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習③
13	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習④
14	まとめ
15	筆記試験

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0402	科 目 名	試験対策講座			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護教養講座	担当講師	佐伯久美子・曾我辰也・山田弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『クエスチョンバンク介護福祉士国家試験過去問題解説集 2020』医療情報科学研究所編（メディックメディア）2019			参考書	『介護福祉士国家試験過去問題集 2020』介護福祉士国家試験受験研究会編（中央法規）2020／『介護福祉士らくらく暗記マスター2020』暗記マスター編集委員会編（中央法規）2020		
成績評価	前期：筆記試験 70%、課題提出 30%による総合評価。後期：学力評価試験 100%。 前期と後期の評価の配分は 50%ずつ。						

1. 授業概要

- ・介護福祉士国家試験の概要と意義について学び、試験に向けた学習方法を学ぶ。
- ・前期は国家試験過去問題等による学習と、領域や科目ごとの学習により学ぶ。
- ・後期は学習進度に応じたクラス分けを行い、模擬問題を活用して学習状況に合わせた学習を行う。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護福祉士として求められる専門的な知識を身につけ、活用できるようになる。
- ・介護福祉士国家試験において、6～7割以上の得点を取得することができる。

3. 授業計画

前期	
1	国家試験の概要について、過去問題の配布と学習
2	人間と社会の理解（領域の学習）
3	人間と社会の理解（領域の学習）
4	国家試験過去問題・解説読み合わせ
5	介護（領域の学習）
6	介護（領域の学習）
7	国家試験過去問題・解説読み合わせ
8	国家試験過去問題・解説読み合わせ
9	こころとからだのしくみ（領域の学習）
10	こころとからだのしくみ（領域の学習）
11	模擬試験・解説読み合わせ
12	期末テスト・人間と社会の領域
13	期末テスト・介護の基本の領域
14	期末テスト・こころとからだのしくみの領域
15	まとめ
後期	
1	発達と老化（科目の学習）
2	障害の理解（科目の学習）
3	模擬試験問題（午前問題）第1回
4	模擬試験問題（午後問題）第1回
5	模擬試験第1回まとめ

6	模擬試験問題（午前問題）第2回
7	模擬試験問題（午後問題）第2回
8	模擬試験第2回まとめ
9	模擬試験問題（午前問題）第3回
10	模擬試験問題（午後問題）第3回
11	模擬試験第3回まとめ
12	学力評価試験（午前問題）まとめ
13	学力評価試験（午後問題）まとめ
14	模擬試験問題（午前問題）第5回
15	模擬試験問題（午後問題）第5回

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0501	科 目 名	介護福祉入門			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	最終レポート試験 70%、平常のレポート課題 10%、新聞切抜きレポート 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・自分の生活を振り返ることで、介護を必要とする人の生活を考える。
- ・見学や視聴覚教材等を通して、高齢者が生きてきた時代を知る。
- ・生きていくことを支援するとはどういうことか考える。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・「生活とは何か」「人間の尊厳とは何か」「個性とは何か」を考え、理解できる。
- ・介護福祉とは人間理解の過程であり、生活の主体者は利用者であることを理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション①：授業の概要、方法、目標、評価～自己紹介から読み取れるもの～
2	入門オリエンテーション②～介護福祉士を目指す理由～
3	介護を必要とする人の理解①高齢者の生きてきた時代を知る
4	介護を必要とする人の理解②高齢者の生きてきた時代を知る
5	介護を必要とする人の理解③高齢者の生きてきた時代を知る（昭和館、しょうけい館見学）
6	介護を必要とする人の理解④高齢者の生きてきた時代を知る（昭和館、しょうけい館見学）
7	介護を必要とする人の理解⑤高齢者の生きてきた時代を知る
8	私たちの生活の理解①～生活とは何か～
9	私たちの生活の理解②～自分自身の生活史～
10	私たちの生活の理解③～自分自身の人生設計～
11	生活環境の重要性①～利用者に合った生活の場
12	生活環境の重要性②～利用者に合った生活の場（ゲスト：視覚障害者と盲導犬）～
13	生活環境の重要性③～楽しみと生きがい～
14	生と死を考える～家で死ぬということ～
15	生活の困難さが生まれる背景、最終レポートについて

科目の教育目標・授業計画「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0502	科 目 名	介護福祉学 A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態.	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 3「介護の 基本Ⅰ」新・介護福祉士養成講座 4 「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 60%、平常点や授業への貢献度 40% で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護の歴史、介護問題の背景、諸外国の状況、日本の介護の現状、介護福祉士の社会的役割を学び、国家資格
を取得する誇りと専門職の意識を養う。
- ・介護従事者として身につけておかなければならない倫理観を学ぶ。
- ・介護の対象者が、高齢者に偏らないよう、障害者への理解も深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護福祉を取り巻く社会状況を認識し、介護福祉士に求められる役割を理解できる。
- ・介護を必要とする人及び家族の様々な生活課題を理解できる。
- ・多職種の役割や専門性を学び、利用者支援のためには幅広い連携が必要なことを理解できる。
- ・介護福祉士としての倫理観を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション①方法、目標、評価 介護福祉士を取り巻く状況① 介護問題の背景（日本の現状と将来）
2	介護福祉士を取り巻く状況② 介護問題の背景（介護の社会化）
3	介護福祉士を取り巻く状況③ 介護保険制度の概要1
4	介護福祉士を取り巻く状況④ 介護保険制度の概要2
5	尊厳を支える介護 QOL、ノーマライゼーション、利用者主体の考え方
6	介護福祉士の役割と機能を支える仕組み①介護福祉士資格、社会福祉士および介護福祉士法の改正
7	介護福祉士の役割と機能を支える仕組み②求められる介護福祉士像
8	介護実践における連携① 多職種連携、地域連携
9	介護実践における連携② 多職種連携（ゲスト：歯科衛生士）
10	介護実践における連携③ 多職種連携（ゲスト：歯科衛生士）
11	介護実践における連携④ 多職種連携（ゲスト：理学療法士）
12	介護実践における連携⑤ 多職種連携（ゲスト：理学療法士）
13	介護福祉士の倫理① 介護の倫理とは、介護実践の倫理的判断基準
14	介護福祉士の倫理② 介護実践における倫理と事例
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0503	科 目 名	介護福祉学 B			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 3「介護の 基本Ⅰ」 ・新・介護福祉士養成講座 4「介護の 基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度を総合して評価する。具体的には、期末試験 80%、平常点や授業への貢献度 20% で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護福祉の専門職として必要な視点を学び、利用者や家族への支援の在り方を理解する。
- ・介護従事者として身につけておかなければならない倫理観を学ぶ。
- ・介護の対象者が、高齢者に偏らないよう、障害者への理解も深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・専門職能団体の機能や役割を認識し、介護福祉士に求められる役割と倫理観を身につける。
- ・介護を必要とする人及び家族の様々な生活課題を理解できる。
- ・多職種の役割や専門性を学び、利用者支援のためには幅広い連携が必要なことを理解できる。
- ・介護福祉士として利用者の尊厳と自立を考え、実践することができる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価、 介護における職能団体の活動① 職能団体のもつ役割と日本介護福祉士会
2	介護における職能団体の活動② 日本介護福祉士会の活動と倫理綱領
3	自立に向けた介護① 自立支援と個別ケア
4	自立に向けた介護② ICFの考え方1
5	自立に向けた介護③ ICFの考え方2
6	自立に向けた介護④ 介護とリハビリテーション1
7	自立に向けた介護⑤ 介護とリハビリテーション2
8	様々な生活支援とその意義① 介護職が行う生活支援
9	様々な生活支援とその意義② 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
10	様々な生活支援とその意義③ 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
11	様々な生活支援とその意義④ 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
12	様々な生活支援とその意義⑤ 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
13	尊厳を支える介護 虐待と身体拘束①
14	尊厳を支える介護 虐待と身体拘束②
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0504	科 目 名	高齢者サービス概論			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版)			参考書	「介護保険制度とは」(東京都社会福祉協議会)		
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 70%、小テスト①10%、小テスト②10%、平常点や授業への貢献度 10%で評価する。						

1. 授業概要

- ・高齢者福祉の歴史的変遷と高齢者を取り巻く社会的背景を知り、支援の必要性を学ぶ。
 - ・介護保険サービスの種類やサービスの報酬・算定基準についての理解を深め、介護サービスの提供の場の特性を学ぶ。
 - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- この授業は教員の実務経験から、当該科目における高齢者福祉の変遷、介護保険制度の概要、サービスの各論等の要点を伝えるとともに、超高齢社会の課題等について実体験から講義することができ、非常に密接な関連性を有している。

2. 到達目標

- ・介護保険制度および高齢者支援の目的を理解する。
- ・介護保険サービスの特徴、高齢者介護の実践の場を理解し、介護福祉士に求められる義務・役割を理解する。
- ・チームアプローチによるサービスを提供するために、他職種の業務の理解と連携のイメージが図れる。
- ・介護の現場の運営や経営に関心を持つ。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護サービスの特性①～介護サービスの意味と特性
2	介護サービスの特性②～ケアマネジメントの意味と仕組み
3	介護サービスの特性③～介護サービスの歴史的変遷と時代背景
4	介護サービスの特性④～介護保険制度 介護保険制度の概要1
5	介護サービスの特性⑤～介護保険制度 介護保険制度の概要2
6	介護サービスの特性⑥～介護保険制度 介護保険制度の概要3
7	介護サービスの特性⑦～地域包括ケアシステム
8	介護サービス提供の場の特性①～訪問系サービス
9	介護サービス提供の場の特性②～通所・短期入所系サービス
10	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス1
11	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス2
12	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス1
13	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス2
14	介護サービス提供の場の特性⑤～福祉用具・住宅改修
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0505	科 目 名	障害者サービス概論			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	岩崎 京子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 2「社会の 理解」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 80%、平常点や授業への貢献度 20% で評価する。						

1. 授業概要

- ・障害および障害者介護の実践の場を具体的にイメージするため、現場の職員の話から理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・障害者福祉の変遷と障害者総合支援法を理解する。
- ・障害者に対する支援の場と支援方法を理解する。
- ・障害の特性に応じた介護方法を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	障害者福祉制度の変遷①—障害者福祉の歴史
2	障害者福祉制度の変遷②—障害者基本計画、新障害者プラン
3	障害者支援制度①—障害者福祉支援法の目的とサービス
4	障害者支援制度②—自立支援給付と利用者負担
5	障害者支援制度③—国・都道府県・市区町村の役割、専門職の役割
6	自立に向けた介護①—ICFの考え方とアセスメント
7	自立に向けた介護②—ケアマネジメント
8	自立に向けた介護③—リハビリテーション
9	介護を必要とする人の理解(障害のある人のくらしの理解)①
10	介護を必要とする人の理解(障害のある人のくらしの理解)②
11	介護を必要とする人の理解(障害のある人のくらしの理解)③
12	介護を必要とする人の理解(障害のある人のくらしの理解)④
13	介護を必要とする人の理解(障害のある人のくらしの理解)⑤
14	障害者の就労支援
15	まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0506	科 目 名	安全管理と福祉機器の未来			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度、特別講師の評価を総合して評価する。具体的には、期末試験 60%、平常点や授業への貢献度 30%、特別講師の評価 10%で評価する。						

1. 授業概要

- ・リスクマネジメントの意義とリスクマネジメントの基本的な方法について学ぶ。
- ・安全な介護の技術や環境の整え方、感染症対策、健康と労働の安全について学ぶ。
- ・介護における安全管理と介護ロボットの基本分野、6分野13項目を含め、介護におけるロボット技術の活用方法と福祉機器の未来について学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・利用者の生活を支えるためのリスクマネジメントの意義と基本的な方法を理解する。
- ・安全な介護の技術と環境の整え方、感染症対策を理解し、チームワークを通してリスクマネジメントを実践する具体的な方法の基本を理解する。
- ・介護福祉専門職として、健康を維持する意識をもち、実践できるようになる。
- ・介護における安全管理の知識と方法及び介護ロボットの基本分野、6分野13項目を含め、介護におけるロボット技術の活用方法と福祉機器の未来についての考え方を習得する。
- ・福祉機器の技術的進化を理解し、人間とロボットが共存する社会について考えることができる。
- ・介護保険制度および高齢者支援の目的を理解する。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、目標、方法、評価 リスクマネジメントの基礎知識①：定義、意義、目的
2	リスクマネジメントの基礎知識②：身体拘束は何故いけないのか、介護事故とは
3	リスクマネジメントの基礎知識③：事故防止と基本対策
4	リスクマネジメントの基礎知識④：セーフティーマネジメントと緊急時のフロー
5	安全で安心な介護：観察、正確な技術、危機予測、分析
6	安全管理と福祉機器の先進技術①：安全管理とは何かを考える
7	安全管理と福祉機器の先進技術②：福祉用具（福祉機器）
8	安全管理と福祉機器の先進技術③：ロボットとは何かを考える
9	安全管理と福祉機器の先進技術④：介護ロボットの必要性
10	安全管理と福祉機器の先進技術⑤：基本分野の概要
11	安全管理と福祉機器の先進技術⑥：移乗、移動、排泄、見守り・コミュニケーション、入浴、介護業務
12	安全管理と福祉機器の先進技術⑦：介護ロボットの未来
13	感染症対策：スタンダードプリコーション、感染症ごとの具体的対策
14	介護従事者の安全：心身の健康管理、労働安全
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0601	科 目 名	介護とコミュニケーション A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技術	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」(中央法規出版)			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 80%、平常点や授業への貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの意義や特徴について学ぶ。
- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの基本的な過程について学ぶ。
- ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践と、利用者の力を引き出す支援の方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護の実践におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できる。
- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの基本的な過程を理解し、展開することができる。
- ・様々な場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際について理解し、コミュニケーションを通して利用者の力を引き出し、支援するための基礎的な技術を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護におけるコミュニケーションとは、コミュニケーションの意義・目的
2	介護におけるコミュニケーションの対象 コミュニケーションの果たす役割
3	援助関係とコミュニケーション 援助関係の特徴、「バイステックの7原則」
4	コミュニケーションの基本技術①
5	コミュニケーションの基本技術②
6	介護実践とコミュニケーション
7	介護におけるコミュニケーションの基本技術①コミュニケーション態度に関する基本技術(傾聴・受容・共感)、要約、沈黙、質問技法、対人距離
8	介護におけるコミュニケーションの基本技術①コミュニケーション態度に関する基本技術(傾聴・受容・共感)、要約、沈黙、質問技法、対人距離
9	介護におけるコミュニケーションの基本技術②言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
10	介護におけるコミュニケーションの基本技術③目的別のコミュニケーション、動機づけ、リフレーミング
11	介護におけるコミュニケーションの基本技術④集団におけるコミュニケーション技術
12	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
13	家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整
14	家族とのコミュニケーション② 家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	0602	科 目 名	介護とコミュニケーション B		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	コミュニケーション技術	担当講師	佐伯久美子		履修区分	必修	
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態.	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 2019			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	筆記試験 80%、提出物 10%、授業への貢献度 10%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・介護福祉の実践におけるチームコミュニケーションの意義と方法について学ぶ。
- ・コミュニケーション障害について学び、利用者の抱える難しさを理解して、関わる方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの意義と情報の共有方法について理解し、チームワークに基づいた介護福祉の実践ができる。
- ・利用者のコミュニケーション障害の特徴を理解し、利用者の状態に応じたコミュニケーション方法について実践することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、目標、方法、評価 介護におけるチームコミュニケーション①：意義、目的、記録の種類と方法
2	介護におけるチームコミュニケーション②：報告・連絡・会議
3	介護におけるチームコミュニケーション③：報告・連絡・会議
4	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション①：コミュニケーション障害とは
5	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション②：高次脳機能障害
6	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション③：失語症
7	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション④：構音障害
8	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑤：視覚障害
9	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑥：聴覚障害
10	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑦：知的障害
11	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑧：発達障害
12	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑨：うつ病
13	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑩：統合失調症
14	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション⑪：認知症
15	筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0701	科 目 名	生活支援技術Ⅰ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生活支援技術	担当講師	佐伯 久美子			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	前期	単位数	3	授業形態	演習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 6・生活支援技術Ⅰ』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	『最新介護福祉士養成講座 7・生活支援技術Ⅱ』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019		
成績評価	・筆記試験50％、実技試験30％、授業への貢献度10％、提出物10％、による総合評価とする。 ・介護実習C（高齢者施設）までに実技試験を合格する必要がある。						

1. 授業概要

- ・生活支援の意義、基本的態度、ICFに基づくアセスメントを理解し、安全で適切な自立に向けた「移動、食事、身支度、清潔」の生活支援の基礎技術を展開するための理論と技術を学ぶ。
- ・多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・利用者を生活の主体者として尊重し、介護福祉士としての基本的態度で実践することができる。
- ・ICFの視点に基づいたアセスメントを理解し、安全で適切な自立に向けた「移動」「食事」「身支度」「清潔」の生活支援の基礎技術を展開することができる。
- ・多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。

3. 授業計画

前期	
1～3	授業オリエンテーション：概要、目標、評価、介護実習室の使用上の心得 高齢者の心身の状態について：高齢者疑似体験 生活支援とは何か①：生活とは、生活行為の種類、生活支援の意義・目的
4～6	生活支援とは何か②：ICF とは何か、ICF の視点に基づくアセスメント ボディメカにクス：ボディメカにクスとは 自立に向けた睡眠の介護①：睡眠の意義、ベッドメイキング
7～9	自立に向けた移動の介護①：移動の意義、アセスメントに必要な状態像の理解、ICFの視点に基づくアセスメント、移動・移乗の介護の留意点 自立に向けた移動の介護②③：居所動作（枕の交換、上方移動、水平移動、寝返り、起き上がり、立ち上がり）
10～12	自立に向けた移動の介護④：ベッド上動作（演習） 自立に向けた睡眠の介護③④：ベッドメイキングテスト、ベッドメイキング（まとめ）
13～15	自立に向けた移動の介護⑤⑥⑦：車いすの種類、自走、移動の介護（自立～一部介助）
16～18	自立に向けた移動の介護⑧⑨⑩：車いすの移乗の介護（全介助、演習、外出の介護）
19～21	自立に向けた移動の介護⑪⑫⑬：車いすの移乗（外出の介助）歩行の介護
22～24	実技テスト・まとめ 自立に向けた身支度の介護①：意義、目的、ICFの視点に基づくアセスメント、生活習慣と装う楽しみを支える介護、多職種との協働
25～27	自立に向けた身支度の介護②③④：着替えの介護（座位、臥位、演習）
28～30	自立に向けた食事の介護①：意義、目的、ICFの視点に基づくアセスメント、美味しく食べることを支える介護、脱水の予防、便秘の予防 自立に向けた食事の介護②③：食事介護（座位、臥位）
31～33	自立に向けた食事の介護④：服薬の介護 自立に向けた身支度の介護⑤⑥：口腔ケア

34～36	実技テスト・まとめ 自立に向けた清潔の介護①：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、爽快・安楽を支える介護多職種との協働
37～39	自立に向けた清潔の介護②③④：整容、手浴、足浴
40～42	自立に向けた清潔の介護⑤⑥⑦：清拭・洗髪・入浴（個人浴槽・特殊浴槽）
43～45	自立に向けた清潔の介護⑧：演習 筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	0702	科 目 名	生活支援技術Ⅱ		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	生活支援技術	担当講師	佐伯 久美子		履修区分	必修	
開講学年	1年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	演習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 7・生活支援技術Ⅱ』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	『最新介護福祉士養成講座 8・生活支援技術Ⅲ』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019		
成績評価	・筆記試験40%、実技試験40%、提出物10%、授業への貢献度10%、提出物(10)による総合評価とする。 ・介護実習C（高齢者施設）までに実技試験に合格する必要がある。						

1. 授業概要

- 生活支援の意義、基本的態度、ICFに基づくアセスメントを理解し、安全で適切な自立に向けた「排泄」「睡眠」の生活支援を展開するための理論と技術を学ぶ。
- 利用者の状態・状況に応じた「食事」「排泄」「移動」の生活支援を展開するための理論と技術を学ぶ。
- 多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。
- 演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- 利用者を生活の主体者として尊重し、介護福祉士としての基本的態度で実践することができる。
- ICFの視点に基づいたアセスメントを理解し、安全で適切な自立に向けた「排泄」「睡眠」の生活支援および、状態・状況に応じた「食事」「排泄」「移動」の生活支援を展開することができる。
- 多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。

3. 授業計画

後期	
1・2	自立に向けた睡眠の介護①②：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、安眠のための介護の工夫、多職種との協働、シーツ交換
3・4	自立に向けた睡眠の介護③④：冷罨法、温罨法
5・6	自立に向けた睡眠の介護⑤⑥：褥瘡の予防の介護
7・8	自立に向けた睡眠の介護⑦⑧：和室の介護、浴衣の介護
9・10	実技テスト・まとめ
11・12	自立に向けた排泄の介護①②：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、気持ちよい排泄を支える介護多職種との協働、尿器・便器の介護
13・14	自立に向けた排泄の介護③④：尿器・便器、ポータブルトイレ・トイレの介護
15・16	自立に向けた排泄の介護⑤⑥：ポータブルトイレ・トイレの介護、おむつの介護
17・18	自立に向けた排泄の介護⑦⑧：おむつの介護、事例演習
19・20	利用者の状態・状況に応じた移動の介護①②：視覚障害者の歩行の介護
21・22	実技テスト・演まとめ
23・24	利用者の状態・状況に応じた食事の介護①②：認知機能の低下した人の食事の介護
25・26	利用者の状態・状況に応じた食事の介護③④：視覚障害の人の食事の介護、嚥下機能の低下した人の食事の介護
27・28	利用者の状態・状況に応じた移動の介護①②：スライディングシート、スライディングボード、リフト
29・30	筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0703	科 目 名	生活支援技術Ⅲ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援 技 術	担当講師	長尾洋江・鈴木正宏			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	演習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 8・生活支援技術Ⅲ』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規)2019			参考書	『最新介護福祉士養成講座 7・生活支援技術Ⅱ』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規)2019 生活支援技術ⅠⅡまでの配布資料を使用する。		
成績評価	・筆記試験 50%、実技試験 50%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識を活用し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術及び、見守りから看取りまでの生活支援技術を学ぶ。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護福祉の専門的な知識と技術を活用し、利用者の状態・状況に応じた個別的な生活支援を展開することができる。
- ・多職種との連携による見守りから看取りまでの生活支援について理解する。

3. 授業計画

前期	
1・2	身体障害に応じた介護①②：脳卒中片麻痺の事例
3・4	身体障害に応じた介護③④：脳卒中片麻痺の事例
5・6	身体障害に応じた介護⑤⑥：関節リウマチの事例
7・8	身体障害に応じた介護⑦⑧：パーキンソン病の事例
9・10	身体障害に応じた介護⑨⑩：脊椎損傷の事例
11・12	身体障害に応じた介護⑪⑫：事例演習
13・14	終末期の介護①②：終末期の介護の意味、死生観、安定期から看取りまでの介護、医療、介護、利用者家族との連携
15・16	終末期の介護③④事例演習
17・18	死後のケア①②：臨終期、死後のケア（エンゼルケア）、グリーフケア
19・20	医療職との連携①②：座薬・浣腸・軟膏塗布・点眼・湿布
21・22	医療職との連携③④：緊急時の対応（誤嚥・骨折・熱傷・呼吸停止）
23・24	医療職との連携⑤⑥：呼吸機能障害の人の介護（酸素療法）
25・26	医療職との連携⑦⑧：膀胱直腸障害（膀胱留置カテーテル・ストマ）
27・28	実技試験・まとめ
29・30	筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	0704	科 目 名	生活支援技術Ⅳ		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	生 活 支 援技術	担当講師	長尾洋江・鈴木正宏		履修区分	必修	
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 6～8・生活支援技術Ⅰ～Ⅲ』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 2019			参考書	生活支援技術Ⅰ～Ⅲまでの配布資料を使用する。		
成績評価	筆記試験 70%、実技試験及び授業への貢献度 30%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・安全で心地よい生活の場作りについて学び、室内環境を整える基礎知識を身につける。
- ・「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識を活用し、様々な場面における生活支援技術の事例について、展開方法を考え実践方法を演習し、身につける。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・利用者の自立と尊厳の保持に配慮し、利用者の生活を支える住環境等の背景と、心身の状態・状況に応じた生活支援の方法について、専門知識を統合して考えることができる。
- ・さまざまな場面において、介護福祉士として質の高い生活支援を実践することができる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション 安全で心地よい生活の場作り①：住宅改修、住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、施設等の工夫、留意点（ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり）、多職種との連携、住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
2	安全で心地よい生活の場作り②：住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
3	安全で心地よい生活の場作り③：住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
4	安全で心地よい生活の場作り④：まとめ
5	国家試験対策①：生活支援技術（家事の支援）
6	国家試験対策②：生活支援技術（家事の支援）
7	国家試験対策③：生活支援技術（移動の介護）
8	国家試験対策④：生活支援技術（食事の介護）
9	国家試験対策⑤：生活支援技術（身支度の介護）
10	国家試験対策⑥：生活支援技術（清潔の介護）
11	国家試験対策⑦：生活支援技術（排泄の介護）
12	国家試験対策⑧：生活支援技術（排泄の介護）
13	国家試験対策⑨：生活支援技術（睡眠の介護）
14	国家試験対策⑩：生活支援技術（終末期の介護）
15	筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	705	科 目 名	文化と暮らしの援助			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	生活支援技術	担当講師	西條 奈緒美			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	期末試験 100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・衣食住の生活には、文化や慣習・伝統があり、生活の継承が豊かな生活を支援することにつながることの重要性を学ぶ。
- ・「自立に向けた家事の介護」では、介助を必要とする人の生活を重視し、個別性を尊重した幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を幅広く習得していくことを目指す。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・日常生活の基盤となることの衣食住には日本特有の文化や歴史があることを理解する。
- ・個々の生活の中には、地域・家族の文化が入っており、個々の価値観につながることを理解する。
- ・生活には、こだわりや個性があり、生活の継承が生活の豊かさにつながることを理解する。
- ・利用者の個性を理解し、適切な家事の介助を提供できる知識を習得する。
- ・家事の介助の意義・目的を理解し、自分の言葉で表現できる。

3. 授業計画

前期	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
後期	
1	生活の理解—生活（衣食住）の理解
2	生活の理解—日本の生活文化
3	生活の理解—生活の個性とアセスメント

4	生活支援—家事援助の意義と生活の質
5	自立に向けた家事の介護①日本の食生活における文化（季節行事と食事）
6	自立に向けた家事の介護②日本の食生活における文化（お祝いの日と食事）
7	自立に向けた家事の介護③日本の食生活における文化（郷土料理）
8	自立に向けた家事の介護④⑤食生活の基礎知識（栄養、作法）
9	自立に向けた家事の介護⑥日本の衣生活に関する文化
10	自立に向けた家事の介護⑦被服生活の基礎知識（TPOに合わせた衣服）
11	自立に向けた家事の介護⑧被服生活の基礎知識（寝具の衛生）
12	自立に向けた居住環境の整備①居住環境整備の意義と目的、生活空間と介護
13	自立に向けた居住環境の整備②居住空間のアセスメント
14	生活の理解—しきたり、冠婚葬祭、お年寄りの知恵袋、言い伝え
15	テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	706	科 目 名	生活支援技術（家事）			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援技術	担当講師	西條 奈緒美			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	期末レポート試験 100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・介助を必要とする人の生活と、その個別性を尊重し、「自立に向けた家事の介護」の意義・目的を考える。
- ・幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を幅広く習得していくことを目指す。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・利用者の生活と個性を尊重する意義を理解する。
- ・日常生活における家事の介助の意義・目的を理解する。
- ・利用者の個性を理解し、適切な家事の介助を提供できる技術を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	自立に向けた家事の介護—家事の意義・目的
2	自立に向けた家事の介護—アセスメントと家事に参加することを支える介助
3	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法①掃除
4	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法②洗濯・しみ抜き・アイロンがけ
5	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法③裁縫・繕い物
6	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑤調理
7	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑥調理
8	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑦調理
9	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑧調理
10	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑨調理
11	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑩調理
12	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑪調理
13	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑫調理
14	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑬調理
15	自立に向けた家事の介護—家事の介助の技法⑭調理

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0801	科 目 名	介護過程Ⅰ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	提出物 70%、試験提出（ファイル提出） 20%、授業への貢献度 10%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・利用者が安心してその人らしく生活するために必要な介護過程の意義を学ぶ。
 - ・介護過程の全体像を理解する。
 - ・自立に向けた介護過程のアセスメントから計画の立案までの展開方法を学ぶ。
 - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- この授業では教員は施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験がある。また介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験があり、授業内容と関連する。

2. 到達目標

- ・利用者の生活を支えるために、どのような介護の実践においても介護過程の展開における思考方法が基盤となることを理解する。
- ・自立に向けた介護過程の展開について、アセスメントから計画立案までの具体的な方法を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、到達目標、方法、評価について 介護過程の意義・目的：介護過程とは何か、介護過程の意義と目的／事例
2	介護過程の全体像の理解①：介護過程の全体像の理解／身近な事例で考える課題解決過程①
3	介護過程の全体像の理解②：身近な事例で考える課題解決過程②／各プロセスの理解
4	アセスメントの視点①：介護過程の展開の視点（ICF・尊厳を守るケアの実践・個別ケアの実践・生活と人生の継続・生きがいと役割・自立支援・多職種協働と連携・根拠に基づく介護）
5	アセスメントの視点②：ICFの視点に基づくアセスメントの基礎理解（ICFとは何か・ICFの特徴・構成要素）
6	アセスメントの視点③：ICFの視点に基づくアセスメントの情報収集／事例
7	アセスメントの支援④：ICFの視点に基づくアセスメントの解釈・関連付け・統合／事例
8	アセスメント①：情報収集の理解
9	アセスメント②：情報収集の実際／自立に向けた介護過程の展開（事例）
10	アセスメント③：ICFの視点に基づくアセスメント／自立に向けた介護過程の展開（事例）
11	アセスメント④：解釈・関連付け・統合／自立に向けた介護過程の展開（事例）
12	アセスメント⑤：課題と課題の優先順位／自立に向けた介護過程の展開（事例）
13	計画①：目標（介護の目的と目標・活動と参加・「できる活動」「している活動」「する活動」）／自立に向けた介護過程の展開（事例）
14	計画②：支援の内容／自立に向けた介護過程の展開（事例） 実施と評価について
15	前期まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0802	科 目 名	介護過程Ⅱ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	提出物 80%、授業への貢献度 20%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・事例を通して自立に向けた介護過程の展開および、利用者の状態に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。
- ・ICFの視点に基づくアセスメントの特徴への理解を深める。
- ・根拠ある介護を実践するための専門的視点の活用と、チームアプローチの方法について学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

この授業では教員は施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験がある。また介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験があり、授業内容と関連する。

2. 到達目標

- ・テキストの事例から、自立に向けた介護過程と利用者の状態に応じた介護過程の展開方法を理解する。
- ・介護過程の展開におけるチームアプローチと介護福祉士の役割を理解する。
- ・介護過程の展開方法を修得し、実際の利用者を理解し、アセスメントすることができる。

3. 授業計画

前期	
1・2	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価／介護過程の展開方法（復習） 自立に向けた介護過程の展開①：（事例1）情報収集
3・4	自立に向けた介護過程の展開②③：（事例1）心身の状況と活動及び背景の理解／ICFの視点に基づくアセスメント
5・6	自立に向けた介護過程の展開④⑤：（事例1）解釈・関連付け・統合・課題の明確化／介護計画の立案
7・8	自立に向けた介護過程の展開⑥⑦：（事例1）介護計画の検討／介護計画の発表・実施
9・10	自立に向けた介護過程の展開⑧：（事例1）評価・事例1まとめ 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：（事例2）情報収集
11・12	利用者の状態に応じた介護過程の展開②③：（事例2）心身の状況と活動及び背景の理解／ICFの視点に基づくアセスメント
13・14	利用者の状態に応じた介護過程の展開④⑤：（事例2）解釈・関連付け・統合・課題の明確化／介護計画の立案
15・16	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥⑦：（事例2）介護計画の検討／介護計画の発表・実施
17・18	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：（事例2）評価・事例1まとめ 介護過程とチームアプローチ①：ケアマネジメントと個別介護過程
19・20	介護過程とチームアプローチ②：多職種連携と介護福祉士の役割 介護過程とチームアプローチ③：（事例3）情報収集
21・22	介護過程とチームアプローチ③：（事例3）心身の状況や背景の理解・多職種連携・サービスの種類／ICFの視点に基づくアセスメント
23・24	介護過程とチームアプローチ③：（事例3）解釈・関連付け・統合・課題の明確化／居宅サービス計画

25・26	介護過程とチームアプローチ③：（事例３）サービス担当者会議／個別介護計画
27・28	介護過程とチームアプローチ③：（事例３）個別介護計画発表・事例３まとめ 介護過程の展開の実際①：高齢者施設実習に向けて
29・30	介護過程の展開の実際②：高齢者施設実習の個別事例のアセスメントの発表／まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0803	科 目 名	介護過程Ⅲ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	前期：提出物 80%、授業への貢献度 20%による総合評価。後期：提出物 80%、授業への貢献度 20%による総合評価。前後期の配分は 50%ずつ。						

1. 授業概要

- ・自立に向けた介護過程の展開を踏まえ、さまざまな状態・状況に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。
 - ・介護福祉の実践におけるチームアプローチの意義と実際の方法を学ぶ。
 - ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法について考察する。
 - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- この授業では教員は施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験がある。また介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験があり、授業内容と関連する。

2. 到達目標

- ・さまざまな状況や状態の利用者に対しても適切に介護過程を展開するための思考方法が身につく。
- ・専門職のチームの一員として、多職種との連携・協働において介護過程を実践することができる。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法を考察することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価 介護過程の展開の実際①：高齢者施設実習の個別事例の計画の立案
2	介護過程の展開の実際②：高齢者施設実習の個別事例の計画の発表
3	介護過程の展開の実際③：高齢者施設実習の個別事例のカンファレンス
4	介護過程の展開の実際④：高齢者施設実習の個別事例の計画の発表
5	利用者の状態に応じた介護過程の展開①：（事例1）情報収集
6	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：（事例1）心身の状況や背景の理解
7	利用者の状態に応じた介護過程の展開③：（事例1）ICFの視点に基づくアセスメント
8	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：（事例1）解釈・関連付け・統合・課題の明確化
9	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：（事例1）介護計画の立案
10	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：（事例1）介護計画の検討
11	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：（事例1）介護計画の発表・実施
12	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：（事例1）評価・事例1まとめ
13	介護過程の展開の実際①：介護実習に向けて
14	介護過程の展開の実際②：介護実習に向けて
15	介護過程の展開の実際③：介護実習の振り返り・まとめ
後期	
1	介護過程の事例研究①：介護過程の事例研究とは・授業の概要・方法・評価
2	介護過程の事例研究②：介護実習の事例の発表
3	介護過程の事例研究③：テーマ・はじめに・目的・事例紹介の作成

4	介護過程の事例研究④：テーマ・はじめに・目的・事例紹介の作成
5	介護過程の事例研究⑤：テーマ・はじめに・目的・事例紹介の作成
6	介護過程の事例研究⑥：テーマ・はじめに・目次・事例紹介の作成
7	介護過程の事例研究⑦：考察の作成
8	介護過程の事例研究⑧：考察の作成
9	介護過程の事例研究⑨：考察の作成
10	介護過程の事例研究⑩：考察の作成
11	介護過程の事例研究⑪：考察の作成
12	介護過程の事例研究⑫：結論・おわりに・文献一覧作成
13	介護過程の事例研究⑬：結論・おわりに・文献一覧作成
14	介護過程の事例研究⑭：抄録の作成
15	介護過程の事例研究⑮：発表について（介護過程の事例研究を1・2年生合同行事として発表する）

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0901	科 目 名	介護総合演習Ⅰ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 総 合演習	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	3	授業形態	演習
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）			参考書	・「介護実習のてびき」		
成績評価	各期提出物、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、提出物50%、平常点や授業への貢献度50%で評価する。通年科目のため、最終的には前期と後期の成績を合算して評価する。						

1. 授業概要

・介護実習を想定し、全体指導、グループディスカッション、ロールプレイ等を取り入れ、実践に即したプログラムで授業展開する。 ・介護実習のサービス種別毎に授業展開する。 ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

・介護施設の概要と利用者の生活、介護福祉士の役割を理解できる。 ・介護実習だけでなく、社会人として求められるコミュニケーション方法や作法、マナーを習得する。 ・自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。
--

3. 授業計画

前期	
1～3	授業オリエンテーション、介護実習の意義と目的 介護福祉士の役割と利用者理解、接遇、立ち居振る舞い、身だしなみ
4～6	高齢者通所実習について、敬語表現（尊敬語、謙譲語、丁寧語） 実習配属発表、書類作成、書類管理について
7～9	実習事前訪問とは 電話応対、アポイント、訪問時のマナー①、電話応対、アポイント、訪問時のマナー②
10～12	実習記録の書き方①、実習記録の書き方② 申し送りとコミュニケーション演習①
13～15	申し送りとコミュニケーション演習② 高齢者通所実習 実習目標と計画表作成、高齢者通所実習 事前指導①（グループワーク）
16～18	高齢者通所実習 事前指導②（実習に向けて） 高齢者通所実習 事後指導①（グループワーク）、高齢者通所実習 事後指導②（実習を終えて）
19～21	有料老人ホームについて、配属発表、実習書類作成 高齢者通所実習の記録の読み返し、回読
22～23	有料老人ホーム実習事前指導（実習に向けて） 有料老人ホーム実習事後指導、授業アンケート
後期	
24～26	後期授業・実習の流れ、実習報告会、感染症 障害者サービス実習について、障害者福祉の理解、変遷、目標と計画表の作成
27～29	国際福祉機器展研究発表会 有料老人ホーム実習の記録の読み返し、回読、障害者サービス実習事前指導①
30～32	障害者サービス実習事前指導② 障害者サービス実習事後指導①（グループワーク）、障害者サービス実習事後指導②（実習を終えて）

33～35	障害者サービス実習のプロセスレコード 高齢者施設実習について、書類作成、高齢者施設の理解
36～38	高齢者施設実習 実習目標と計画表作成、障害者施設実習の記録の読み返し、回読 レクリエーション演習①
39～41	レクリエーション演習② 高齢者施設実習事前指導①（グループワーク）、高齢者施設実習事前指導②（実習に向けて）
42～44	高齢者施設実習 帰校日①（学内指導）、高齢者施設実習 帰校日②（学内指導） 高齢者施設実習 事後指導（グループワーク）
45～46	実習報告会 実習報告会、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0902	科 目 名	介護総合演習Ⅱ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 総 合演習	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	通年	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）			参考書	・「介護実習のてびき」		
成績評価	各期提出物、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、提出物50%、平常点や授業への貢献度50%で評価する。通年科目のため、最終的には前期と後期の成績を合算して評価する。						

1. 授業概要

- ・介護実習を想定し、全体指導、グループディスカッション、ロールプレイ等を取り入れ、実践に即したプログラムで授業展開する。
- ・介護実習のサービス種別毎に授業展開する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護施設の概要と利用者の生活を理解し、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を理解できる。
- ・個別ケアの在り方が介護過程の展開や生活支援技術の実践を通じて理解でき学習の統合化ができる。

3. 授業計画

前期	
1	2年次の介護実習予定、訪問入浴介護、訪問介護実習について、書類作成
2	訪問入浴介護、訪問介護実習について、実習目標、玄関先のマナー、居宅でのマナー(演習)
3	実習事前指導(グループワーク、実習に向けて)
4	実習事後指導(グループワーク、実習を終えて)
5	施設実習について、書類作成
6	施設実習 実習目標と計画表作成
7	施設実習 実習目標と計画表作成
8	施設実習 帰校日(学内指導)
9	施設実習 帰校日(学内指導)
10	実習事後指導(グループワーク、実習を終えて)、認知症グループホーム実習について
後期	
11	後期の授業予定、実習報告会について、グループホームの理、実習目標と計画表作成解
12	施設実習の記録回読
13	実習報告書の中間報告
14	実習報告会
15	実習報告会、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	介護実習 A（通所・有料老人ホーム）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 佐伯久美子 山田弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態.	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 2019			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。 高齢者通所実習 5/7、有料老人ホーム実習 2/7 の配分で評価する。						

1. 授業概要

- ・通所施設および有料老人ホームで実習し、介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作り、介護専門職の役割について学ぶ。
- ・実習指導者につき、利用者の日常生活支援の実際について指導を受ける。
- ・高齢者通所実習においては、週 1 回、実習巡回教員が施設・事業所を訪問する。実習生は状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・利用者の様々な生活の場及び、住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要性について理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景(家族、生活歴等)を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。

3. 授業計画

前期
【高齢者通所実習】 1年次 7月(5日間) 通所介護サービス事業所、通所リハビリテーションサービス事業所、小規模多機能型居宅介護事業所で行う。
(1)通所サービスの機能と役割、実習施設の理念について理解する。
(2)通所サービス利用者の特徴と利用の目的を学ぶ。
(3)通所サービスにおける介護職の生活支援の内容について学ぶ。
(4)利用者との基礎的なコミュニケーションを実践する。
(5)実習での学びを正確にわかりやすく記録することができる。
【有料老人ホーム実習】 1年次 9月(2日間) 特定施設入居者生活介護事業所(有料老人ホーム)で行う。
(1)居住系サービスとしての有料老人ホーム(特定施設)の機能と役割、実習事業所の理念を理解する。
(2)住まいの環境と入居者の特徴、利用の目的を理解する。
(3)入居者の一日の生活の流れと自立に向けた生活支援の内容を学ぶ。

(4)入居者個々のライフスタイルを知り、価値観を尊重したコミュニケーションを実践する。

(5)実習での学びを正確にわかりやすく記録することができる。

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	介護実習 B（障害者サービス）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我達也 佐伯久美子 山田弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 2019			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・障害者（知的障害者、身体障害者、精神障害者）の利用している施設において、介護を必要とする利用者や就労訓練等で社会参加と自立に向けた支援を必要とする利用者との人間的な関わりを持つ。
- ・利用者との関わりを通じて、障害者への偏見や差別意識について考え、当事者への理解を深める。
- ・利用者の個別ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作りや役割、多職種連携について学ぶ。
- ・実習指導者につき、日常生活支援や、社会参加に向けた自立支援並びに、地域社会における共生を目指す、ノーマライゼーションおよびインクルージョンの実践について学ぶ。
- ・週 1 回、実習巡回教員が施設・事業所を訪問する。実習生は状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・利用者の様々な生活の場及び、住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要性について理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景（家族、生活歴等）を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。

3. 授業計画

後期
【障害者サービス実習】 1 年次 9 月（6 日間）
障害者支援施設、障害福祉サービス事業所（生活介護、就労継続支援等）で行なう実習。
（1）障害者総合支援法に基づく障害者支援施設または障害福祉サービス事業の機能と役割および実習施設・事業所の理念を理解する。
（2）さまざまな利用者の生活像と障害像を理解する。
（3）障害特性や、利用者のニーズに応じた生活支援の内容と方法を学ぶ。
（4）障害特性に応じたさまざまなコミュニケーション方法を学ぶ
（5）正確にわかりやすく記録を行い、基礎学習を踏まえた振り返りができる。

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	介護実習 C（高齢者施設）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 佐伯久美子 山田弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・ 高齢者施設に入所し介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じ、個別の介護ニーズを理解する。
- ・ 介護専門職としての信頼関係作りと役割や多職種連携について学ぶ。
- ・ 実習指導者について、利用者個々の生活支援技術の見学・実践を行い、指導を受ける。
- ・ 集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。
- ・ 週 1 回、実習巡回教員が施設を訪問する。実習生は実習状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・ 15日間継続して利用者に関わり、介護過程の展開（情報収集）の学習をする。
- ・ 実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・ 施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・ 様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・ 利用者が主体的に日常生活を送れる支援の必要性を理解できる。
- ・ 利用者の心身の状態や生活の背景(家族、生活歴等)を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・ 受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・ 生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・ 職員の指導を受けて、学校で学んだ一部の生活支援技術の実践ができる。
- ・ 自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。
- ・ 介護過程の展開(アセスメント:情報収集)を実施できる。

3. 授業計画

後期
【高齢者施設実習】 1年次 2月(15日間) 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）または介護老人保健施設で行う。
(1) 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）または介護老人保健施設の機能と役割、実習施設の理念を理解する。
(2) 施設で生活する利用者の特徴と生活の様子を知り、介護を要する原因と生活支援のニーズを理解する。
(3) 利用者の生活を支える基本的な生活支援技術の方法と根拠を学ぶ
(4) 施設で生活する利用者とその家族の思いを理解する。
(5) 介護職員と多職種との情報共有や、連携のあり方について学ぶ。
(6) 利用者の生活を豊かにするレクリエーションを計画し実践する。

(7) 専門用語を使用して実習内容を記録し、授業で学んだ専門的視点を活かした振り返りができる。

(8) 介護過程の展開における情報収集を実践し、課題について考える。

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	介護実習D （事業Ⅱ 施設実習）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 佐伯久美子 山田弥生 鈴木正宏			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	5	授業形態.	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 2019			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・23日間にわたり、継続して利用者と関わり、介護過程の展開（観察、情報収集とアセスメント、個別介護計画立案・実施・評価）の一連のプロセスを実施する。
- ・利用者個別の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作りと役割、利用者や家族への支援の必要性について学ぶ。
- ・サービス担当者会議（カンファレンス）や申し送り等に参加し、情報共有や多職種連携、地域ケアの在り方を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。
- ・集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。
- ・週1回、実習巡回教員が施設を訪問する。実習生は実習状況を報告し、実習巡回教員の指導を受ける。
- ・実習期間中に帰校日を数回設け、学内に於いてグループワークや個別面談指導を実施する。実習の進捗状況を確認・調整し、それまでの実習を振り返り、課題の整理とこれからの実習目標について確認を行う。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを発表し、今後の課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・これまでの実習目標の達成・継続を前提に、利用者の個別的な介護の実践を行い、より専門的・計画的に介護サービスを提供する力を身につける。
- ・観察、コミュニケーション、記録類を通じて介護に必要な情報を幅広く収集できる。
- ・一つひとつの情報のもつ意味を解釈し、情報同士の関連付け・統合化ができる。
- ・アセスメントで導いた課題の優先度を考え、生活課題の明確化ができる。
- ・利用者や多職種と共に個別の介護計画（介護目標、具体的な援助内容・方法）を立案することができる。
- ・利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護計画の実施と一人ひとりに合った生活支援技術の実践ができる。
- ・介護目標を達成できたかについて、評価することができる。
- ・具体的な援助内容・方法が適切であったかについて、評価することができる。
- ・介護計画を修正する必要があるかの判断ができる。

3. 授業計画

前期
【事業Ⅱ 施設実習】2年次 7月（23日間） 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、介護老人保健施設、障害者支援施設等で行う。
（1）法制度における実習施設の機能と役割、実習施設の理念を理解する。
（2）施設で生活する利用者の特徴と生活の様子を知り、介護を要する原因と生活支援のニーズを理解す

る。
(3) 利用者の生活を支える基本的な生活支援技術の方法とその根拠を学ぶ。
(4) 施設で生活する利用者とその家族の思いを理解する。
(5) 変則勤務（夜勤を含む）を行い、各勤務帯の役割や、職員間の情報共有と連携・協働、利用者の生活全般の支援について学ぶ
(6) さまざまな会議（カンファレンス）等への参加と、チームアプローチの実際を学び、よりよい介護に向けた実践のあり方を理解する。
(7) 利用者の生活を豊かにするレクリエーションを計画し実践する。
(8) 専門用語を使用しながら実習の内容を記録し、授業で学んだ専門的視点を活かした振り返りができる。
(9) 1人の利用者を担当し、介護過程の展開におけるアセスメント、計画の立案、実施と結果、評価の一連の流れを実践し、個別性のある利用者の生活を支援することができる。
(10) 介護の理念の実現、施設の理念の実現に向けた介護福祉士のさまざまな役割と実践のあり方について考えることができる。

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	介護実習 E（訪問・認知症グループホーム）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 佐伯久美子 山田弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2019			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。 訪問実習 3/9、認知症グループホーム実習 6/9 の配分で評価する。						

1. 授業概要

- ・居宅やグループホームにおいて介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者のニーズを理解する。
- ・居宅やグループホームにおける介護専門職としての役割、言語的および非言語的コミュニケーションの技術と信頼関係の構築について学ぶ。
- ・実習指導者について、個別ニーズに基づく日常生活支援や、多職種連携の在り方、地域社会とのつながりや環境的配慮の実践について学ぶ。
- ・認知症グループホーム実習では、週 1 回、実習巡回教員が事業所を訪問する。巡回指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りと、今後の課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景（家族、生活歴等）を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・職員の指導を受けて、学校で学んだ一部の生活支援技術の実践ができる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。

3. 授業計画

前期
【訪問介護実習】2 年次 6～9 月（2 日間または3 日間）【入浴介護実習】2 年次 6～9 月（1 日） 訪問介護サービス事業所、訪問入浴介護事業所で行う（※訪問入浴実習は選択制）。
（1）在宅で暮らす利用者の個別的な生活の様子と、生活環境、疾病および障害について理解する。
（2）在宅生活を支える家事支援（生活援助）、入浴ケア、その他の生活支援の方法について学ぶ。
（3）必要な情報を収集するための利用者・家族とのコミュニケーションの方法や家族支援について学ぶ。
（4）訪問介護、訪問入浴における多職種連携の実践の様子を知る。
（5）正確にわかりやすい記録を行い、学校での学習を踏まえた考察ができる。
後期

【認知症グループホーム実習】2年次 11月（6日間）

認知症対応型共同生活介護事業所（認知症グループホーム）で行う実習。

- （１）認知症対応型共同生活介護の機能と役割、事業所の理念を理解する。
- （２）認知症の人の心身の状況に配慮した日常生活の支援の方法を理解し、実践できる。
- （３）認知症の人に自信と感情を回復する、生活者としての活動と役割の支援について理解する。
- （４）認知症の人の豊かな人間関係を保ち支えあうための支援について理解する。
- （５）認知症の人の精神の安定と、信頼関係を築くためのコミュニケーションを行なうことができる。
- （６）認知症のある人の状態・状況に応じたレクリエーションを計画し、実践することができる。
- （７）実習の内容を正確に記録し、認知症ケアのあり方や介護福祉士に求められるケアについて考え、専門的で多角的な視点で考察することができる。

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	1101	科 目 名	発達と老化の理解A		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生		履修区分	必修	
開講学年	1 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 (中央法規出版)			参考書			
成績評価	科目修了試験 60% レポート 30% 授業貢献度 10%						

1. 授業概要

- ・身体の成長や発達について理解する。
- ・運動機能、精神面、社会性における発達について理解する。
- ・ライフサイクルに応じた発達段階と発達課題を理解する。
- ・老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響を理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・人の成長と発達を理解できる。
- ・運動機能の発達、社会性の発達を理解できる。
- ・発達段階に応じた支援方法を理解できる。
- ・各年代に応じた課題を理解できる。
- ・高齢者を取り巻く社会環境を理解できる。
- ・老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響を理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	人間の成長と発達 発達とは（発達の原則と法則）
2	人間の成長と発達 発達とは（影響する要因）
3	人間の発達段階と発達課題（身体的機能の成長と発達）
4	人間の発達段階と発達課題（発達理論、発達課題）
5	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）①
6	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）②
7	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）③
8	老年期の特徴と発達課題（老年期の定義、老化学説）
9	老年期の特徴と発達課題（老年期の発達課題）①
10	老年期の特徴と発達課題（老年期に発達課題）②
11	老化にともなうこころとからだの変化と生活 （老化に伴う社会的な変化と生活への影響） ①
12	老化にともなうこころとからだの変化と生活 （老化に伴う社会的な変化と生活への影響） ②
13	老化にともなうこころとからだの変化と生活 （老化にともなう心理的な変化と生活への影響） ①
14	老化にともなうこころとからだの変化と生活 （老化にともなう心理的な変化と生活への影響） ②
15	まとめ テスト

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	1102	科 目 名	発達と老化の理解B		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生		履修区分	必修	
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 (中央法規出版)			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)		
成績評価	期末試験 80% レポート 20%						

1. 授業概要

- ・老化に伴うこころとからだの変化や特徴を理解する。
- ・老化に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響を理解する。
- ・高齢者に多い症状や病気、その対応について理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・高齢者の身体機能の変化を理解できる。
- ・身体機能、精神機能の変化が日常生活に及ぼす影響を理解できる。
- ・高齢者の身体・精神的特徴に応じた生活支援を実施することができる。
- ・保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力の必要性を理解できる。

3. 授業計画

前期			
1	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響①	
2	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響②	
3	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響③	
4	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化	まとめ
5	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響①	
6	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響①	
7	高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴	高齢者に多い症状と訴えとその留意点
8	高齢者と健康	高齢者に多い病気①	(三大生活習慣病とその他の生活習慣病)
9	高齢者と健康	高齢者に多い病気②	(慢性腎疾患、呼吸器疾患)
10	高齢者と健康	高齢者に多い病気③	(骨・関節系の病気、歯・口腔の病気)
11	高齢者と健康	高齢者に多い病気④	(目、耳、皮膚の病気、腎・泌尿器の病気)
12	高齢者と健康	高齢者に多い病気⑤	(消化器系の病気、循環器系の病気)
13	高齢者と健康	高齢者に多い病気⑥	(脳・神経系の病気、精神の病気)
14	高齢者と健康	保健医療職との連携	
15	まとめ テスト		

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1201	科 目 名	認知症概論			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	認 知 症 の理解	担当講師	菅 亜希子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」(中央法規出版)			参考書	・「認知症の人の「想い」からつくるケア」在宅ケア 介護施設・療養型病院編-インターメディカ		
成績評価	期末試験 100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・認知症の定義、歴史、原因疾患、介護保険制度など、認知症に関する基礎的な知識を学ぶ。
- ・認知症の人や家族に対する支援などについて学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・認知症を理解し、具体的な支援や対応策につなげられる。

3. 授業計画

後期	
1	認知症を取り巻く状況
2	認知症の人の医学・行動・心理的理解①認知症の人の行動・心理症状
3	認知症の人の医学・行動・心理的理解②脳のしくみ
4	認知症の人の医学・行動・心理的理解③原因疾患
5	認知症の人の医学・行動・心理的理解④認知症の診断と治療
6	認知症の人の医学・行動・心理的理解⑤認知症の予防、心理的理解
7	認知症の人の体験の理解①認知症の人の体験
8	認知症の人の体験の理解②認知症の人の介護をしていくために
9	認知症の人に対する介護 (パーソンセンタードケアなど)
10	認知症に関する制度・関係機関など①
11	認知症に関する制度・関係機関など② (新オレンジプラン・若年性認知症)
12	まとめ
13	国家試験対策
14	学期末試験対策
15	試験60分、解説30分

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1202	科 目 名	認知症概論			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	認 知 症 の理解	担当講師	佐々木 由恵			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」(中央法規出版)			参考書			
成績評価	期末試験 100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・認知症の人や家族、またその人たちを支える地域連携に対する支援について学ぶ。
- ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活を理解し、具体的な対応策につなげることを学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・認知症のケア、障害、心理や家族支援など現状や課題を理解できる。
- ・機能の変化と日常生活への影響が理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	認知症の人の生活の場と介護①適した生活環境と支援体制
2	認知症の人の生活の場と介護②適した生活環境と支援体制
3	認知症の人の生活の場と介護③在宅で生活する認知症の人たちと家族への支援
4	認知症の人の生活の場と介護④在宅で生活する認知症の人たちと家族への支援
5	認知症の人の生活の場と介護⑤グループホームに入所している認知症の人の介護
6	認知症の人の生活の場と介護⑥施設に入所している認知症の人の介護
7	認知症の人への生活支援の事例①脳血管性認知症
8	認知症の人への生活支援の事例②脳血管性認知症
9	認知症の人への生活支援の事例①アルツハイマー型認知症
10	認知症の人への生活支援の事例②アルツハイマー型認知症
11	認知症の人への生活支援の事例①若年性認知症
12	認知症の人への生活支援の事例②若年性認知症
13	連携と協働①チームアプローチ、地域におけるサポート体制
14	連携と協働②チームアプローチ、地域におけるサポート体制
15	テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1301	科 目 名	障害の理解A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころと からだの しくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座14「障害の理解」 （中央法規出版）			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版		
成績評価	科目修了試験 60% 事前レポート 30% 授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

- ・障害の基本的概念について理解する。
- ・障害を理解し、それぞれの状態、状況に応じた支援方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・障害の種別、制度、歴史について理解することができる。
- ・障害の医学的側面、社会的側面について理解できる。
- ・障害に応じた支援方法を理解できる。

3. 授業計画

後期	
1	障害の基礎的理解 (障害の概念)
2	障害の基礎的理解 (障害者福祉の基本理念)
3	障害のある人の生活の理解 肢体不自由 (運動機能障害) のある人の生活①
4	障害のある人の生活の理解 肢体不自由 (運動機能障害) のある人の生活②
5	障害のある人の生活の理解 発達障害のある人の生活①
6	障害のある人の生活の理解 発達障害のある人の生活②
7	障害のある人の生活の理解 知的障害のある人の生活①
8	障害のある人の生活の理解 視覚障害のある人の生活①
9	障害のある人の生活の理解 視覚障害のある人の生活②
10	障害のある人の生活の理解 聴覚・言語障害のある人の生活①
11	障害のある人の生活の理解 聴覚・言語障害のある人の生活②
12	障害のある人の生活の理解 精神障害のある人の生活①
13	障害のある人の生活の理解 精神障害のある人の生活②
14	障害のある人の生活の理解 知的障害のある人の生活 当事者家族から学ぶ②
15	まとめ、テスト

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1302	科 目 名	障害の理解B			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座13「障害の理解」(中央法規)			参考書			
成績評価	期末試験 70% レポート 30%						

1. 授業概要

- ・ 障害者を理解し、それぞれの状態、状況に応じた支援方法を学ぶ。
- ・ 他職種、サービス、家族支援について学ぶ
- ・ 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・ 障害の医学的側面、社会的側面について理解できる。
- ・ 障害に応じた介護について理解できる。
- ・ 多職種との連携、家族支援の必要性を理解できる。

3. 授業計画

前期		
1	障害のある人の生活の理解	高次脳機能障害のある人の生活①
2	障害のある人の生活の理解	高次脳機能障害のある人の生活②
3	障害のある人の生活の理解	重症心身障害のある人の生活
4	障害のある人の生活の理解	内部障害のある人の生活(心機能障害)
5	障害のある人の生活の理解	内部障害のある人の生活(腎機能障害)
6	障害のある人の生活の理解	内部障害のある人の生活(膀胱・直腸機能障害)
7	障害のある人の生活の理解	内部障害のある人の生活(呼吸機能障害)
8	障害のある人の生活の理解	内部障害のある人の生活 (肝臓機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)
9	障害のある人の生活の理解	難病のある人の生活①
10	障害のある人の生活の理解	難病のある人の生活②
11	障害のある人に対する介護①	
12	障害のある人に対する介護②	
13	家族への支援	
14	連携と協働	
15	まとめ、テスト	

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	1401	科 目 名	こころとからだのしくみ		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	こころと からだの しくみ	担当講師	山田 弥生		履修区分	必修	
開講学年	1 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉全書12「こころとからだのしくみ」 (メヂカルフレンド社) ・「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)			参考書			
成績評価	科目修了試験 70%、小テスト 20%、授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

- ・からだのしくみ（解剖・生理）を理解する。
- ・恒常性を維持するしくみについて理解する。
- ・こころ（欲求・自己概念）について理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・器官、組織の役割と正常を理解できる。
- ・恒常性を維持するしくみを理解できる。
- ・こころ（欲求・自己概念等）について理解できる。
- ・からだとこころの連動を理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	こころとからだのしくみを理解する必要性・意義、人間の構造と機能
2	からだのしくみの理解 : 細胞・組織・器官、神経系、骨格系
3	からだのしくみの理解 : 筋肉系、感覚器系
4	からだのしくみの理解 : 消化器系
5	からだのしくみの理解 : 泌尿器、生殖器
6	からだのしくみの理解 : 内分泌系、免疫系
7	からだのしくみの理解 : 恒常性を維持するしくみ
8	からだのしくみの理解 : 呼吸器系
9	からだのしくみの理解 : 循環器系
10	からだのしくみの理解 : 生命徴候
11	からだのしくみの理解 : 調節・修復・再生するしくみ
12	こころのしくみの理解 : 脳のつくりと働きの理解
13	こころのしくみの理解 : 人間の行動を引き起こすこころのしくみ
14	こころのしくみの理解 : 社会的人間としてのこころのしくみ
15	こころとからだのしくみの理解 : テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1402	科 目 名	生活行為のしくみA			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4 単位	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉全書12「こころとからだのしくみ」 (メヂカルフレンド社) ・「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)			参考書			
成績評価	期末試験 70% 確認テスト 20% 授業貢献度 10%						

1. 授業概要

- ・各生活支援技術におけるこころとからだのしくみを理解する。
- ・生活支援技術の根拠を理解する。
- ・生活支援技術の観察項目を理解する。
- ・生活に障害が生じるメカニズムや、その変化への気づき、対応方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・各生活支援技術のこころとからだのしくみが理解できる。
- ・心身の機能低下や障害が生活行為に及ぼす影響を理解できる。
- ・生活支援技術の観察項目が理解できる。
- ・医療職との連携が理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①基礎知識
2	移動に関連したこころとからだのしくみ②基礎知識
3	移動に関連したこころとからだのしくみ③活動と生活動作
4	移動に関連したこころとからだのしくみ④ボディメカニクス
5	移動に関連したこころとからだのしくみ⑤活動と生活動作（歩行のしくみ等）
6	移動に関連したこころとからだのしくみ⑥機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
7	移動に関連したこころとからだのしくみ⑦機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
8	移動に関連したこころとからだのしくみ⑧機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
9	移動に関連したこころとからだのしくみ⑨機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
10	移動に関連したこころとからだのしくみ⑩移動のまとめ
11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①身じたくの持つ意味
12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②口腔、爪、毛髪等の構造と機能
13	身じたくに関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす影響
14	身じたくに関連したこころとからだのしくみ④生活場面におけるこころとからだの変化の気づき
15	まとめ、テスト
後期	
1	食事に関連したこころとからだのしくみ①食事の意義と目的と基礎知識
2	食事に関連したこころとからだのしくみ②食べることに関連したからだのしくみ
3	食事に関連したこころとからだのしくみ③食事の種類
4	食事に関連したこころとからだのしくみ④機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
5	食事に関連したこころとからだのしくみ⑤機能の低下・障害が及ぼす移動への影響

6	食事に関連したところとからだのしくみ⑥変化の気付きと医療職との連携
7	食事に関連したところとからだのしくみ⑦食事介助における観察ポイント
8	食事に関連したところとからだのしくみ⑧まとめ、確認テスト
9	入浴に関連したところとからだのしくみ①入浴の意義と目的
10	入浴に関連したところとからだのしくみ②皮膚のしくみとはたらき
11	入浴に関連したところとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす影響
12	入浴に関連したところとからだのしくみ④皮膚機能の変化と影響（褥瘡、かぶれ、かゆみ）
13	入浴に関連したところとからだのしくみ⑤生活場面におけるところとからだの変化の気付き
14	入浴に関連したところとからだのしくみ⑥入浴介助における観察ポイント 確認テスト
15	まとめ、テスト

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1403	科 目 名	生活行為のしくみ B			科目区分	専任 実務者教員
科 目 群	こころと からだの しくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉全書12「こころとからだのしくみ」 (メヂカルフレンド社) ・「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)			参考書			
成績評価	期末試験 80% 確認テスト 20%						

1. 授業概要

- ・各生活支援技術におけるこころとからだのしくみを理解する
- ・生活を支える生活支援の実践の根拠を理解する。
- ・生活支援技術の観察項目を理解する。
- ・生活の障害が生じるメカニズムや、その変化への気づき、対応方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・各生活支援技術のこころとからだのしくみが理解できる。
- ・心身の機能低下や障害が生活行為に及ぼす影響が理解できる。
- ・生活支援技術の観察項目を理解できる。
- ・医療職との連携が理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	排泄に関連したこころとからだのしくみ①排泄の意味
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ②排便のしくみとスムーズな排便の促し
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響
4	排泄に関連したこころとからだのしくみ④機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤医療職との連携
6	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑥排泄のまとめ 確認テスト
7	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①睡眠の意味
8	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②睡眠が及ぼすからだへの影響
9	睡眠に関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響
10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ④医療職との連携、睡眠のまとめ 確認テスト
11	死にゆく人のこころとからだのしくみ①死のとりえ方、終末期のからだの理解
12	死にゆく人のこころとからだのしくみ②ターミナルケアと緩和ケア
13	死にゆく人のこころとからだのしくみ③死を受容するプロセス
14	死にゆく人のこころとからだのしくみ④医療職との連携、死のまとめ
15	テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1501	科 目 名	医療的ケア 講義			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	医 療 的 ケア	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	通年	単位数	4 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉全書13「医療的ケア」(メヂカルフレンド社)			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」(成美堂出版)		
成績評価	期末試験 80% 確認テスト 15% レポート 5%						

1. 授業概要

- ・医療を必要とする人の安全と暮らしを守るための基礎的知識として、人間と社会、保健医療制度とチーム医療、安全な療養生活、清潔保持と感染予防、健康状態の把握について学習する。
- ・高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」・「経管栄養」の概論および実施手順について学習する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・利用者・家族の尊厳を守りつつ、医療倫理を理解した上で、安全な療養生活を保障するための知識を得ることができる。
- ・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引を、安全・安楽に実施するために必要な基本的知識と手順について理解することができる

3. 授業計画

前期	
1	医療的ケアを学ぶ意義
2	人間と社会 個人の尊厳と自立
3	人間と社会 医療の倫理①
4	人間と社会 医療の倫理②
5	人間と社会 利用者や家族の気持ちの理解
6	保健医療制度とチーム医療
7	安全な療養生活 (1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 (2) 救急蘇生法
8	感染予防と清潔保持 (感染予防)
9	感染予防と清潔保持 (感染予防)
10	感染予防と清潔保持 (職員の感染予防)
11	感染予防と清潔保持 (職員の感染予防)
12	感染予防と清潔保持 (療養環境の清潔、消毒法、滅菌と消毒)
13	健康状態の把握 (1) 身体・精神の健康、(2) 健康状態を知る項目、観察、(3) 急変状態など
14	健康状態の把握 (バイタルサインの測定) 確認テスト
15	まとめ、テスト
後期	
1	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論 (1) 呼吸のしくみとはたらき (2) いつもと違う呼吸状態 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論 (喀たん吸引とは)
2	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
3	人工呼吸器と吸引、子どもの吸引
～4	
5	喀痰吸引に伴うケア、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
6	安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策
7	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順と留意点、記録及び報告
～8	
9	たん吸引のまとめ 確認テスト

1 0	高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論（消化器のしくみ、消化器の主な症状）
11 ～ 12	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（経管栄養とは）
13～14	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
1 5	注入内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点
1 6	子どもの経管栄養について、経管栄養に必要なケア 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
1 7	経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、安全確認
1 8	急変・事故発生時の対応と事前対策、経管栄養の実施手順と留意点
1 9	経管栄養のまとめ 確認テスト
2 0	まとめ、テスト

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1502	科 目 名	医療的ケア 演習			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	医 療 的 ケア	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	後期	単位数	1 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉全書13「医療的ケア」(メヂカルフレンド社)			参考書			
成績評価	各項目の最終試験 100%						

1. 授業概要

- ・高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」「経管栄養法」の技術を習得する。
- ・必要な解剖生理を理解する。
- ・物品の安全な取り扱い方法を理解する。
- ・危険予測の必要性を理解する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・喀痰吸引、経管栄養法を安全かつ適切に実施するための技術を習得する。
- ・清潔・不潔について理解できる。
- ・実施前、実施中、実施後に起こりうる危険を予測することができる。
- ・適切な報告・記録ができる。

3. 授業計画

後期	
1	救急蘇生
2 ～7	経管栄養演習 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養
8 ～ 13	経管栄養演習 経鼻経管栄養
14 ～ 17	喀痰吸引 口腔吸引
18 ～ 21	喀痰吸引 鼻腔吸引
22 ～ 25	喀痰吸引 気管内吸引

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1601	科 目 名	福祉住環境			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	福 祉 教 養科目	担当講師	河村 春美			履修区分	選択
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	18－19 年版 福祉住環境コー ディネーター2 級短期合格テキ スト（日本能率協会マネジメン トセンター）			参考書			
成績評価	試験、レポート、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 60%、レポート 20%、 平常点や授業への貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・福祉住環境コーディネーター資格取得のための専門的知識・技術を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・福祉住環境コーディネーター2級資格を取得する。

3. 授業計画

前期	
1	住環境整備の意義
2	住環境における福祉の考え方
3	福祉住環境コーディネーターの役割と機能
4	住環境整備関連職への理解と連携
5	福祉住環境整備相談の受け方・対応の方法
6	高齢者や障害者に対する住生活関連諸施策
7	高齢者や障害者の疾患と障害特性
8	介護と住環境整備
9	福祉住環境整備の実践的考え方
10	福祉住環境整備の共通基本技術
11	部屋別・場所別福祉住環境整備の手法
12	福祉住環境整備実践のための住宅に必要な基礎知識
13	福祉用具の基本性能
14	福祉用具の具体的な活用①
15	福祉用具の具体的な活用②

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1602	科 目 名	介護保険事務			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	福 祉 教 養科目	担当講師	鈴木 正宏			履修区分	選択
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・ 介護保険事務士養成テキスト 1,2,3,4、 ・ 介護事務教材（介護給付費明細書、請求書）			参考書			
成績評価	つしま医療福祉研究財団が認定する介護保険事務士認定試験（実技試験のみ）に合格すること。						

1. 授業概要

- ・サービス種別毎の介護給付費請求に係る算定方法等の基本的な知識を学び、介護報酬請求事務や介護給付費請求書の作成を行う。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・介護保険制度におけるサービス種別毎の請求業務を理解し、実践することで、卒業後の介護現場での実務者としての能力を広げる。
- ・介護保険制度における介護事業の運営に必要な保険請求の基本的知識と技術を習得する。

3. 授業計画

15	
後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価、サービス全般の共通事項
2	訪問介護の算定
3	訪問入浴/訪問看護の算定
4	訪問リハビリテーション/居宅療養管理指導の算定
5	通所介護/通所リハビリテーションの算定
6	福祉用具/短期入所の算定
7	特定施設/居宅介護支援の算定
8	練習問題
9	地域密着型サービスの算定
10	練習問題
11	施設サービスの算定
12	練習問題
13	練習問題
14	練習問題
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1701	科 目 名	社会人基礎力講座			科目区分	兼任
科 目 群	一 般 教 養科目	担当講師	相原 芳美			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価							

1. 授業概要

- ・挨拶や言葉遣いなど社会人として必要な基礎的な力を理解し、就職に対する意識を高め、チームで働く力や向上心を伸ばす。
- ・就職や将来の夢を実現するために、自己理解を深めた上で、書類の書き方や面接での基本姿勢などの演習を行い、実践形式の授業を展開する
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・マナーやコミュニケーション等の社会人として必要な力とその重要性を理解している。
- ・基礎的なマナーを理解し、実践できている（挨拶、お礼など、私物を机の上で出さない、上着や帽子の着用等）。
- ・コミュニケーション力が、講座開始時よりも向上している（発信・傾聴）。
- ・自分の長所や短所など、就職活動に必要なアピールポイントを概ね理解できている。
- ・就職活動に対する意識が高まり、準備すべき事柄（書類を書く、エントリーする等）を理解できている。

3. 授業計画

後期	
1	SMBC 特別講座 SMBC コンシューマーファイナンス（株）
2	本授業の目的の理解・「働くということ」「社会人基礎力」の意味と意義の理解
3	社会人に必要なマナーの理解（挨拶・言葉遣い・第一印象・SNS利用のマナー）
4	コミュニケーション力向上ワークショップ
5	「チームワーク」向上のワークショップ
6	マイナビ説明会 （株）マイナビ
7	「前に踏み出す力」向上のワークショップ
8	「考え抜く力」向上のワークショップ
9	着こなし講座 コナカ・フラッグ
10	就職活動の流れとスケジュールの理解・履歴書とエントリーシートの書き方
11	「自己理解」のためのワークショップ①（価値分析・モチベーション）
12	「自己理解」のためのワークショップ②（好きなこと・得意なこと）
13	「自己理解」のためのワークショップ③（社会人基礎力の再評価・自己PR）
14	会社の仕組みとハウレンソウ・企業が求める人材・面接に向けての心構え
15	面接練習・まとめテスト

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1702	科 目 名	パソコン演習			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	一 般 教 養科目	担当講師	半田 仁			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	・わかるエクセル・ワード・ パワーポイントこれ1冊(学研)			参考書			
成績評価	試験、レポート、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末筆記試験 6%、レポート試験 54%、平常点や授業への貢献度 40%で評価する。						

1. 授業概要

パソコンの基本操作から業務処理ソフト（Office）の活用スキルを修得する基礎コースである。
・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・パソコン形状（デスクトップ型、ノート型、タブレット型）が変わっても使用することができる。
- ・付属ソフトを使用して、必要な情報の整理・分析・抽出などが出来る。
- ・各ソフトを使用して、必要に応じた文章、表、資料をパソコンで作成することができる。
- ・必要に応じて、周辺機器を活用することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス、パソコン（OS）、付属ソフト、業務処理ソフト（Office）の基本操作 キーボード、マウス、プリンター、補助記憶装置（USB）など、周辺機器の使用方法
2	ワードプロセッサソフト（Word）使用方法（文章の作成、文章の編集など）自己紹介文作成
3	応用機能、箇条書きと段落番号、表構造の基本設定
4	画像の活用①（クリップアート、ワードアート、図形描画など）ポスター作成
5	画像の活用②（スクリーンショット、付属画像処理ソフトなど）
6	表計算ソフト（Excel）使用方法（データ入力、表の作成など）カレンダー作成
7	ワークシートの活用（セルの編集、書式設定、行・列の挿入と削除、結合・分割など）
8	関数の利用①（数式、集計関数、検索関数など）勤務表作成
9	関数の利用②（SUM関数、AVERAGE関数、IF関数など）
10	応用機能（グラフ作成など）
11	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）使用方法（スライド作成など）課題作成
12	テンプレートの利用、文字入力と構成など
13	応用機能（動画挿入、アニメーション効果、画面切り替え効果など）
14	プレゼンテーション準備、スライドショーなど
15	まとめ、期末考査（実技試験）

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1703	科 目 名	一般教養講座			科目区分	兼任
科 目 群	一 般 教 養科目	担当講師	菅野 敬祐			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価							

1. 授業概要

- ・過去に学習した範囲の数学と国語の復習を行う（数学は式の計算、展開・因数分解、平方根、方程式、関数、相似、図形の面積・体積等、国語は漢字の読み・書き、類義語・対義語、熟語、同訓異字・同音異義語等）。
- ・新聞記事を読んで設問に答える新聞読解を行う。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・数学・国語・新聞読解の学習により、社会人として相応しい基礎学力・一般教養を身につけ、就職試験にも対応できるようになる。

3. 授業計画

前期			
1	漢字：読み取り・書き取り①	数学：式の計算	読売ワークシート
2	漢字：読み取り・書き取り②	数学：多項式と単項式の乗除	読売ワークシート
3	漢字：形が似ている漢字	数学：乗法公式	読売ワークシート
4	漢字：同音異義語・同訓異字	数学：因数分解	読売ワークシート
5	漢字：敬語表現・熟語	数学：平方根	読売ワークシート
6	漢字：類義語・対義語	数学：1次方程式	読売ワークシート
7	漢字：ことわざ・慣用句	数学：連立方程式	読売ワークシート
8	漢字：三字熟語・四字熟語	数学：2次方程式	読売ワークシート
9	漢字：音読み・訓読み①	数学：2次方程式の活用	読売ワークシート
10	漢字：間違いやすい漢字①	数学：1次関数	読売ワークシート
11	漢字：学習漢字の音訓	数学：関数 $y = ax^2$	読売ワークシート
12	漢字：熟語の成り立ち・読み方	数学：立体の表面積・体積	読売ワークシート
13	漢字：故事成語・名言格言	数学：平行線と角・相似	読売ワークシート
14	漢字：間違いやすい漢字②	数学：三平方の定理	読売ワークシート
15	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート
後期			
1	漢字：一字漢字の読み・書き①	数学：多項式の乗法・公式	読売ワークシート
2	漢字：一字漢字の読み・書き②	数学：式の展開・因数分解	読売ワークシート
3	漢字：一字漢字の読み・書き③	数学：根号を含む式の乗法	読売ワークシート
4	漢字：熟語の読み・書き①	数学：根号を含む式の計算	読売ワークシート
5	漢字：熟語の読み・書き②	数学：2次方程式とその解	読売ワークシート
6	漢字：熟語の読み・書き③	数学：2次方程式の解き方	読売ワークシート
7	漢字：複数の音読み・訓読み	数学：2次方程式の利用	読売ワークシート
8	漢字：誤りやすい読み・書き	数学：関数 $y = ax^2$ ・グラフ	読売ワークシート

9	漢字：同訓異字・同音異義語	数学：2次関数の変域・変化の割合	読売ワークシート
10	漢字：二字熟語	数学：放物線と直線	読売ワークシート
11	漢字：三字熟語	数学：相似な図形・相似の利用	読売ワークシート
12	漢字：四字熟語	数学：相似な図形の面積比・体積比	読売ワークシート
13	漢字：類義語	数学：円周角の定理・利用	読売ワークシート
14	漢字：対義語	数学：三平方の定理・利用	読売ワークシート
15	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート